

平成 30 年度 国立研究開発法人土木研究所「契約監視委員会」審議概要

- 1 日 時 令和元年 5 月 29 日(水) 10:00~11:52
- 2 場 所 (つくば)土木研究所 及び (札幌)寒地土木研究所
- 3 開催方法 つくば—札幌間でのテレビ会議
- 4 出席者 委 員 : 佐無田委員長、小宮山委員、島田委員、千葉委員
土研側 : 西川理事長以下、関係役職員
- 5 議 題 (1)平成 30 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
(2)平成 30 年度契約案件の事後点検について
(3)令和元年度調達等合理化計画(案)の点検について

6 審議の概要

(1)審議結果

- ① 平成 30 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
自己評価の目標達成状況は、全て A 評価であるが、その点検内容について、妥当と了承された。
- ② 平成 30 年度契約案件の事後点検について
随意契約及び一者応札の案件について、特に問題はないものと了承された。
- ③ 令和元年度調達等合理化計画(案)の点検について
計画について、了承された。

(2)審議内容(委員からの主な意見等)

- ①平成 30 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
 - ・総合評価落札方式の推進について、どのような検討をしているのか
 - ・MPS の効果は大きい。ペーパーレス化の推進も大事ではないか。
 - ・一者応札の改善に向けた所の取組は良好であるが、一者応札の外性的な要因として、人員確保が難しいといった問題が影響しているのではないか。
 - ・早期発注、発注時期の分散化は、過去に比べてよく取り組まれている。

② 平成 30 年度契約案件の事後点検について

- ・規模の大きい業務の一者応札に対する措置として、業務を分割して発注することも検討されているが、分割することにより、全体的な検討ができなくなるよう留意する必要がある。
- ・落札率が低い業務について、品質等に問題はないか。
- ・発注時期が遅いものに一者応札の傾向がある。

③ 令和元年度調達等合理化計画(案)の点検について

- ・意見なし